



なぜ公共イメージの向上が必要なのか？

第1地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 五十幡 和彦(行田さくら RC)

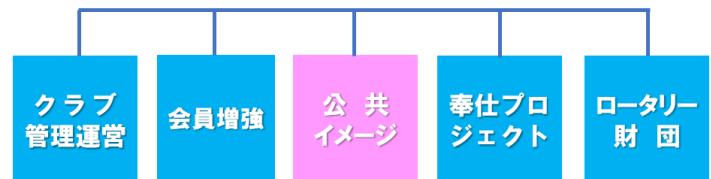
CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)の中の「公共イメージ委員会」

ロータリーの活動の根源は、それぞれのクラブにあります。クラブの活動が充実し発展することが、ロータリー全体の発展につながります。地域リーダーの役割は、各ロータリークラブが活性化するよう支援させていただくことです。

RI は、クラブの活動を充実させるために CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)を推奨しています。CLP の目的は、効果的なクラブ運営の枠組みを提供することにより、ロータリークラブの強化を図ることですが、その一つの形が「標準的なロータリークラブの委員会」の設置です。現在、クラブ管理運営、会員増強、奉仕プロジェクト、ロータリー財団については、多くのクラブで委員会が設置されていますが、いまだに設置が進んでいないのが公共イメージ委員会です。私がガバナーを務めた 2024-25 年度 RI 第 2570 地区の各クラブ年度計画書を見ても、求められている 5 つの委員会のうち、最も設置数が少なかったのが公共イメージ委員会でした。



標準的なロータリークラブの委員会



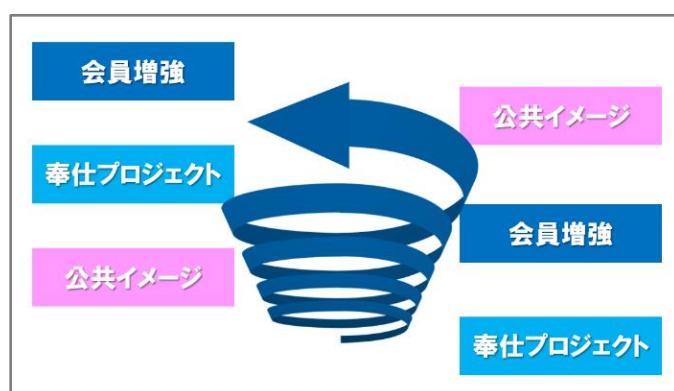
より大きな奉仕プロジェクトと会員増強を実現するための「公共イメージ向上」

これは、クラブ管理運営、会員増強、奉仕プロジェクト、ロータリー財団と比べ、公共イメージの重要性がまだ十分に認識されていないことの表れでもあります。では、ロータリーの活動において、なぜ公共イメージが重要なのでしょうか。奉仕プロジェクトと会員増強と並んで公共イメージの重要性を示しているのが、以下の図です。

このスパイラルでは、①クラブが取り組んでいる奉仕プロジェクトが充実すれば、クラブの公共イメージが向上します。②クラブのブランド力・公共イメージが向上すれば、クラブに入りたいと考える方が増え、会員増強につながります。

③会員が増えれば、さらに大きなインパクトをもたらす奉仕プロジェクトが可能になります。このように、公共イメージが向上すれば会員が増え、会員が増えればより大きなインパクトをもたらす奉仕プロジェクトが実現できるという好循環が生まれ、ロータリークラブは発展していきます。

皆様のクラブにおいて、奉仕プロジェクトや会員増強と並んで「公共イメージ」が重要であることをご理解いただき、ロータリーの活動がますます発展されることを心よりお祈り申しあげます。





第2地域 恒久基金／大口寄付アドバイザー(E/MGA) 福原 有一 (東京銀座RC)

皆さまこんにちは。第2地域の恒久基金／大口寄付アドバイザー(E/MGA)の福原有一です。第1地域の森川昭正E/MGAが9月のニュースで、2025年度グローバル・フィラソロピー・セミナーのご報告とともにご案内申し上げた通り、私ども3名のE/MGAは恒久基金や大口寄付やAKSの目標達成に向けて努力しています。25-26年のフランチェスコ・アレツツオRI会長の「よいことのために手を取りあおう/Unite for Good」というメッセージを実現させる為に皆さまのご協力をお願いします。

アレツツオ会長年度も3月に入りましたので、改めて中間の報告を申し上げます。まず、大口寄付、冠名基金、AKSの三分野については、大口寄付目標100件に対し63件(1月16日現在、昨年度実績は111件)、冠名基金目標各地区1件に対し4件(同16件)、AKS目標10件に対し2件(同6件)です。昨年に比べ出足がやや低調かと感じますので、ガバナー、財団委員長に奮起を促したいと存じます。



次にイベント報告です。昨年11月18日に第54回ロータリー研究会の付随プログラムとして、ヨコハマグランドインタークンチネンタルホテルにてメジャードナー午餐会／アーチ・クランフ・ソサエティ(AKS)認証式典が開催されました。式典にはRI本部からフランチェスコ・アレツツオRI会長及びホルガー・クナークTRF管理委員長が駆けつけて下さり、メジャードナー・レベル4代表者の顕彰に続き、AKSに入会された前田直俊さん、藤井秀香さん、五十幡和彦さん、そして管理委員長サークルにレベルアップされた飯村慎一さん聰子さんご夫妻、金杉誠さん美鈴さんご夫妻に認証状と花束の贈呈が行われました。

アレツツオ会長とクナークTRF管理委員長の登場と共に厳粛な式典が進み、食事会では一緒にスナップ写真を撮るなど大変和やかな会となりました。企画から実現に至るまでご協力頂いた地域役員の皆さん、財団室スタッフの方々には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

引き続き大口寄付、恒久基金、AKSの目標の達成に向けご協力を宜しくお願い申し上げます。
どうもありがとうございました。



第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐　塗田 真三（福山RC）

第3地域ロータリー財団地域コーディネーター補佐の塗田真三（第2710地区・福山RC）です。

会員の皆様に寄付をお願いし、その目標を達成することが役割ですので皆様のご理解ご協力をお願いします。

さてロータリーの重点分野に「平和構築と紛争予防」があります。日本でも国際基督教大学で平和フェローの人たちがこのテーマを勉強しています。その一環として、彼らは我が2710地区（広島・山口）広島市で原爆の脅威と市民の平和運動を学び、地区財団委員会メンバーとの交流会を行います。小生も数回参加したことがあります、8年程前のフェローの一人の話をします。



彼はアフガニスタン生まれで、（お母さんは教育を受けていないので、文字が書けなかったとのこと。）オーストラリアに亡命し、国連軍に参加しドローンの研究をしているとのことでした。オーストラリア人でもコーティジアン（白人）ではありません。

当時、戦争にドローンが使われていなかったのでおもちゃのようなドローンをイメージしておられました、そんなものではなく無人機の大きさの話でした。それから数年後、ロシアのウクライナ侵攻により、ドローン攻撃が日常的に行われ、ウクライナはドローン大国になりました。

紛争はロシア・ウクライナだけでなくイスラエル・パレスチナでも起こり、ベネズエラ・イランなど政情不安な国が増えています。デモによる死者も含め、世界が良い方向に向かっているとは思えない状況です。

ロータリーの活動は市民運動ではありますが、お互いの人権を認め合うところから始まっています。お互いの人権を認め合うためには、まずはお互いを知ること、発言の背景を理解すること、違いを認めることなど他者から学ぶ姿勢が必要です。拒絶しては始まりません。我々は永年、財団奨学生、地区奨学生、加えてロータリー財団とは異なりますが青少年交換留学生、米山記念奨学生と世界に羽ばたく人たちを応援してきましたが、今こそ彼らの出番であり、彼らへの期待は高まります。

そして彼らへの支援として寄付をお願いすることは避けて通れません。皆様の浄財により、「平和構築と紛争予防」が実現すれば、その価値はたいへん尊いものになるでしょう。